事例紹介 ｜ 丹青社の新たな事例（取り組み）をご紹介します。

医療法人社団 伍仁会 様

岡本クリニック

事業主　医療法人社団 伍仁会

所在地　神戸市中央区三宮町

リニューアルオープン　2025 年 5 月

事例概要　三宮駅に直結する神戸交通センタービル内にあるクリニック。内科（呼吸器・循環器・消化器）を中心に、乳腺外科やSAS（睡眠時無呼吸症候群）など多彩な診療科目を備え、地域の健康をトータルに支えています。

【6階】落ち着いた雰囲気と視認性を両立した受付カウンター

【7階】奥行きと開放感を高めた待合空間

CROSS TALK

カラーと意匠でフロアの区分けと統一感を両立させ、休診しない改修工事を敢行

三宮駅直結という好立地にある「岡本クリニック」では、成長戦略の一環として 6 階の外来診療フロアと 7 階の健診センターの改修を行いました。休診することなく改修工事を進めるといったこれまでにないプロジェクトについて、当社デザイナーの山本が医療法人社団伍仁会の渡邊理事長とともに振り返りました。

再開発が進む三宮に先駆けた市民の健康を支えるクリニックの改修

山本　今、神戸市全体で再開発が行われ、三宮の街も大きく生まれ変わろうとしています。その先陣を切るような形での今回の改装プロジェクト。前理事長から引き継いだクリニックの成長戦略の一環だったと伺っています。

渡邊　岡本クリニックが三ノ宮駅の駅ビル直結の立地でクリニックと健診センターを始めて20年が経ちました。近年、女性の利用者が増えたこともあり、今後の新たな方向性の一つとして若い女性が利用しても気持ちの良い健診センターや、より深みのある外来診療を目指していこうと改装に踏み切りました。

山本　最初にお話をお聞きしたとき、「神戸らしさ」「港町」といったキーワードをいただいたのですが、神戸を具現化するのはなかなかに難しいと感じました。一般的なイメージは海と山があるなどわかりやすいのですが、そこではなくもっと様式的なものにしたいと思いコンセプトを詰めていきました。
プロジェクトの進め方はお客様によって異なりますが、岡本クリニック様とはイメージに余白を持たせた資料を作り、そこから意見をいただきブラッシュアップを重ねていきました。このプロジェクトが上手くいった要因に、深いディスカッションがあると感じています。

渡邊　私が何気なく話す言葉から重視している箇所を拾ってくださったり、「前回、こうおっしゃられていたのでイメージしてみました」と具現化してくださったり。素人の私たちの言葉を迅速に受け取り、的確に対応していただいたおかげで、自分たちも一緒に新しいクリニックを作っていると感じることができました。

何度もディスカッションを重ねレイアウトやデザインをブラッシュアップ

渡邊　特に、6階の外来フロアに内科、婦人科、乳腺科、そして検査室とバックヤードをどう配置するかは、かなり話し合いましたよね。婦人科と乳腺科を女性専用エリアにするのは譲れない条件である一方、検査室は男女に関わる診療科も一部で共有しますし、総合受付もこの階です。若い女性にも気軽に来院していただく雰囲気がほしいものの、来院される方は10代からご高齢の方まで幅広いので皆さんに心地よく過ごしていただきたい。そんな要望をお伝えしたのを覚えています。何度も行ったディスカッションはとても充実していて、最後のレイアウトでピタリとハマった感覚がありました。

山本　来院される方々にとっての居心地の良

さに加え、スタッフの動線は非常に重要です。そのため、実際に働く方々の現場の声はとても大事なのですが、現場の声をどこまで取り入れるのかのバランスは難しいものです。岡本クリニック様は現場の声をまとめて、ここは取り入れる、ここは取り入れないといった判断を定例会の中で明確に示していただけたので、最適化を図ることができたと感じています。

渡邊　同じ診察室で医師が変わる形ではなく、独立した形で内科、婦人科、乳腺科があるクリニックは神戸にはあまりなく、そこは当クリニックの強みだと自負しています。その独立している点を空間デザインで表現し、今自分は何科にいるのかがわかるようにしたいと思っていました。そんな難しい依頼にも応えていただき、さりげなく現在位置がわかるデザイン、レイアウトがとても気に入っています。

山本　デザイン面や空間の演出では、やはり丸柱がポイントだったと感じています。神戸随一のクリニックを目指し、神戸ならではの新しさと歴史、海と山の自然や高級居留地といった様式美に着目しました。そのイメージを、丸柱が持つ曲線であったり、タイルのパターンなどで表現しました。街の雰囲気は、街灯にあるような球体をモチーフにした調光調色が可能な照明にし、ファブリック類は自然をテーマにして差し色のアクセントを入れることによって、フロアの切り替えも実現させました。

渡邊　最初の打ち合わせでは、丸柱がネックのような雰囲気だったのですが、結果としてこの柱が前面に押し出され、空間の切り替えの役割を果たしていて、すごく良いですよね。

山本　振り返ると、丸柱よりも壁やタイル、ファブリックの素材を探すほうが大変だったかもしれません。渡邊理事長には、他のスタッフと一緒に家具などを見に行っていただいたりもしましたね。

渡邊　3Dやイメージ画像だけではわからないので、見に行きましたね。実際の仕上がりで驚いたのは、7階の健診センターのレイアウトです。当初の設計から廊下を10cm広くし、その分、診察室を狭くしました。狭くなることに多少の不安はあったのですが、完成したときのフロントから総合待合所、廊下までのアプローチが突き抜けるように見えて、あの10cmでここまで変わるのかと感心しました。

綿密なスケジューリングで実現した、休診しない改修工事

山本　営業しながらの改修工事は、私どもとしても初めての経験でした。工事が進む中での診察や作業などいかがでしたでしょうか？

渡邊　患者様の中にはシビアな状況の方もいることから1日も診察をお休みしたくはありませんでした。半日でも良いので診察したい。そうリクエストさせていただいたのですが、結果として休診することなく改修工事が完了しました。私たちはスケジュールに従って「今日はこの空いている部屋で」「来週はこの部屋で」と移動するだけでしたので、スケジュールや改修プランの組み立てなど、丹青社さんが大変だったと思います。

山本　工事期間とエリアを区切って進めやすいレイアウトではありました。しかし「この区画が終わったら設備をこちらに移し、診療はこちら」とそれぞれの進捗スケジュールを細かく調整しなければならなかった点は大変でしたね。ただ、診療エリアが変わる1週間前、前日、当日にも打ち合わせをさせていただいて連絡を密にできたので、助かりました。

渡邊　機器を移動したりするため、移動後に電子カルテが立ち上がらないといったこともありましたが、作業している方々がすぐ近くにいるので迅速に対応してくださり、安心できました。

神戸に集う人たちの健康を支える医療法人へ

渡邊　今回の改修プロジェクトは、神戸の再開発に先手を打つ形で始めました。まずは空間やレイアウトが整いましたので、今後はさらに中身の充実化を図っていきます。具体的には、従来の患者様たちを大切にしながらも、女性をコアターゲットにしたクリニックの構築です。訪れやすく、相談がしやすいクリニックを目指し、神戸に住む方々、神戸で働く方々の健康を担保するような医療法人でありたいと考えております。

山本　医療施設は、人々が集まり楽しむ商業施設とは全く別軸の空間設計が必要です。一方で、病院がもっとフレンドリーで訪れやすくなることで、より健康に寄与できる、健康な人が増えるといった視点も医療施設の設計には大切です。今回の改修プロジェクトは、それがひとつの形になった事例だと思います。そしてもうひとつ強く感じたのが、医療施設は長く愛されて使っていただく、普遍的な要素が必要ながらも、施設内で稼働する機器や設備は最新のものにアップデートしていかなければならないということ。レイアウトをガラリと変えることなく、設備を入れ替えながら長く使っていただける、更新性の高い施設をつくっていきたいです。

左から丹青社・岸本、丹青社・嶋川、医療法人社団伍仁会・渡邊理事長、丹青社・山本、丹青社・今村

その他のプロジェクトメンバーの声

丹青社 設計　嶋川萌

神戸をテーマにした2フロアのデザインは、それぞれのフロアをベースカラーで区分けしつつ、タイルの意匠などで繋がりを持たせることができました。ターゲットである“女性”の幅が広くなっている今、複数のイメージが交じり合う神戸らしさともうまく統合できたのではと感じています。

丹青社 営業　岸本彩子

医療施設はレイアウトがとても重要です。そこを決めるために毎回、何時間も膝を突き合わせて会議をしたことでお互いが良いと思える施設になったと思います。

丹青社 制作　今村智紀

診療を続けながらの改修工事ということで、毎日クロスが少しずつ変わっていったり、きれいになった範囲が増えていったり。改めてこんな進め方もできるのだと実感しました。

株式会社丹青社

〒108-8220　東京都港区港南1-2-70品川シーズンテラス19F　TEL.03-6455-8110（代表）
お問い合わせフォーム　https://web.tanseisha.co.jp/public/application/add/263

お問合せフォーム　株式会社丹青社